幸松地区公民館・幸松第二公民館

◇運営の基本方針

生涯学習拠点施設として、地域住民の身近な学習・交流活動の場として親しみをもって来館できる公民館を目指す。

◇重点施策

1　地域住民の健康増進と住民相互の理解と交流を深め、学習機会の充実と公民館利用の促進を図る。
2　家庭教育の充実と青少年の健全育成を図る。
3　各種関係組織・団体との連携を図りながら、事業展開を図る。

◇重点事業

1　こうまつ寺子屋　　2　こうまつ音楽祭　　3　幸松地区体育祭
4　公民館まつり　　5　幸松ふれあい文化祭

幸松地区公民館
所在地　〒344-0004　春日部市牛島６６７番地１
幸松市民センター内
ＴＥＬ・ＦＡＸ　０４８－７５２－６０６５
Ｅ-mail　komatsukou@city.kasukabe.lg.jp

幸松第二公民館
所在地　〒344-0007　春日部市小渕７３番地１
ＴＥＬ・ＦＡＸ　０４８－７６１－５５１０
Ｅ-mail　komatsu2kou@city.kasukabe.lg.jp

職　員	館　長	（兼務）	田　口　俊　彦
	主　査	（兼務）	吉　田　美智代
	主　任	（兼務）	宇　内　啓　介
	主　任	（兼務）	蛭　間　博　文
	主　任	（兼務）	段　　春　菜
	フルタイム	（兼務）	磯　野　良　英
	フルタイム	（兼務）	猪　村　康代美
	フルタイム	（兼務）	和　田　　泉
	フルタイム	（兼務）	前　島　浩　子

幸松地区　1

事業名 テーマ	スポーツ広場 バドミントン・卓球の施設開放	対象	一般	定員	バドミントン 6名 卓球　24名
ねらい	体育室を無料開放し、スポーツを通じて健康増進を図るとともに地域住民の交流を図る。				
協力機関及び団体		特色位置づけ		SDGsの目標No	3
会場	幸松地区公民館　体育室	教材資料等	卓球台・ネット・支柱等		
実施までの経過	公民館だよりに掲載	PR方法	公民館だよりに掲載。実施日の前月、前々月に案内する。		
		受付方法	幸松市民センター窓口、電話で申込み 開催月の1か月前の月から受付		

月日(曜) 回数	時間 総時間数	内容	方法	参加者 男計	参加者 女計	参加者 合計	講師・助言者の職名 氏名
4月6日(日) ～ 3月15日(日)	第一・第三日曜日 4時間 第二土曜日 3時間30分	体育室を無料開放する。 第一・第三日曜日 8:30～10:00 バドミントン 10:00～12:30 卓球 第二土曜日 9:00～12:30 卓球	実技	168	336	504	
32回	123時間			168	336	504	

企画運営上の工夫	年齢・体力等に合わせて活動できるように、選択できるスポーツをバドミントンと卓球の2種目とした。
成果 参加者の声など	初めて参加する人には常連の人が利用の仕方を教えており、準備・後片付けにいたっては参加者同士が協力しあいスムーズに行われている等、地域住民同士のふれあいの場となっている。また、参加者が卓球のサークルに加入することもあり、サークル活動の活性化にもつながっている。
課題と展望	卓球が人気で常連以外の参加も多く、日によっては参加者が定員寸前になるほど盛況である。市民の交流・健康増進の場となっている事業であるので、今後も継続していきたい。バドミントンの参加人数が少ないため、廃止または別の種目の導入を検討する。

事業名 テーマ	子育てサロン	対象	乳幼児とその保護者	定員	10組
ねらい	親子で気軽に立ち寄り、育児の不安・悩みなど、子育てについての情報交換や参加者相互の交流を図る。				
協力機関及び団体	幸松地区民生委員・児童委員協議会 更生保護女性会	特色位置づけ		SDGsの目標No	4
会場	幸松地区公民館　講堂	教材資料等	オモチャ・絵本・工作用具等		
実施までの経過	公民館だよりに掲載(偶数月)	PR方法	公民館だよりに掲載 子育て情報メール配信		
		受付方法	幸松市民センター窓口、電話で申込み		

月日(曜) 回数	時間 総時間数	内容	方法	参加者 男計	参加者 女計	参加者 合計	講師・助言者の職名氏名
4月16日(水)	10:00～11:30	こいのぼりを作ろう！	遊び	2	2	4	更生保護女性会
5月21日(水)		バルーンで工作！	対話	3	3	6	幸松地区民生委員・児童委員協議会
6月18日(水)		七夕飾りをつくろう！		4	6	10	
7月16日(水)		牛乳パックで遊ぼう！		4	5	9	
8月20日(水)		広いお部屋で遊ぼう！		2	1	3	
9月17日(水)		紙コップで遊ぼう！		2	2	4	
10月15日(水)		ハロウィンを楽しもう！		2	2	4	
11月19日(水)		パネルシアター・えほんの読み聞かせ		3	9	12	
12月17日(水)		バルーンで遊ぼう！		3	8	11	
1月8日(木)		豆まきをしよう！		2	3	5	
2月5日(木)		ひな祭を楽しもう！		1	6	7	
3月5日(木)		広いお部屋であそぼう！		0	2	2	
12回	18時間			28	49	77	

企画運営上の工夫	・一年を通して季節に合わせた簡単な工作を企画し、参加者が楽しめるようにした。 ・安全面と衛生面に配慮した会場づくりとして、クッションフロアを活用した。カラフルなマットで会場が明るくなった。
成果 参加者の声など	子育て情報メールの配信を活用し、メールからも申込みができるようにしたことが参加者の増加につながった。
課題と展望	・例年の企画に加え、親子参加型の事業を計画し参加者を集めていきたい。 ・子育て中の親同士の交流や気分転換の場となっているので、今後も継続していきたい。

幸松地区　3

事業名 テーマ	こうまつ寺子屋 ①男の子と女の子のキューピーストラップを作ろう ②こうまつ史跡めぐり ③小学生サイエンス教室 ～たのしい化学の実験～	対象	①成人一般 ②成人一般 ③小学生とその保護者	定員	①25名 ②15名 ③20組 (40名程度)
ねらい	市民生活に身近なテーマを取り上げ、地域住民の教養を高める。				
協力機関及び団体	①樋籠松寿会 ②春日部観光ボランティアの会 ③埼玉県立春日部東高等学校　化学部	特色位置づけ	重点事業	SDGsの目標No	4・11
会場	①幸松市民センター　研修室A・B ②小淵山観音院他、幸松地区の寺社仏閣や史跡等 ③幸松市民センター　講堂	教材資料等	①はさみ ②散策のしおり(コースガイド) ③レジュメ・実験キット		
実施までの経過	1月～3月　①②企画・立案・講師決定 4月　③企画・立案・講師決定 4月1日(火)　①②公民館だより掲載 4月中旬　①②安心安全情報メール配信 6月上旬　③学校に周知 6月1日(日)　③公民館だより掲載	PR方法	①②③公民館だよりに掲載 ②③安心安全情報メール配信 ③学校連絡アプリ		
		受付方法	①4月18日(金)9:00～ 窓口申込み ②4月16日(水)9:00～ 窓口、電話で申込み ③7月2日(水)9:00～窓口、電話で申込み		

月日(曜) 回数	時間 総時間数	内容	方法	参加者 男計	参加者 女計	参加者 合計	講師・助言者の職名 氏名
5月21日(水)	13:00～16:00	ストラップの作成	実習	0	3	3	樋籠松寿会手工芸委員
5月15日(木)	9:30～12:00	幸松地区内の歴史的遺物散策	見学	4	4	8	春日部観光ボランティアの会
8月1日(金)	10:00～11:30	化学の実験 「過冷却ってなに？」他	実習	9	12	21	埼玉県立春日部東高等学校 化学部顧問教諭・生徒
3回	7時間			13	19	32	

企画運営上の工夫	①講師以外に5名のアシスタントを配置することで、丁寧に指導し、時間内に作品を作り終えることができるようにした。②普段、歩きなれていない方でも参加しやすいように、歩行時間が1時間～1時間30分程度となるように、コース設定をする。③DXの観点から、各学校にリーバー等の学校連絡アプリを活用した広告の配信に協力してもらった。
成果 参加者の声など	①参加者からは「楽しい雰囲気の中で、親切に教えていただいた。達成感がありました」「可愛い作品ができた」との声が寄せられた。②ガイドが紙芝居を使って解説する等、初学者にとっても理解しやすい講座とすることができた。③「学校連絡アプリを見て申込んだ」との声が複数見受けられ、DXの観点から効果的に周知することができた。
課題と展望	①企画当初25名募集していたが参加者3名という結果に終わった。材料の事前購入が必要な事業であり指導者も高齢化しているため、事業を継続するか否かを今後検討していく必要がある。②今回で3回目となった講座である。コース設定が歴史にスポットをあてたものとなる傾向が強いため、別のテーマにスポットをあてたコース設定(自然史等)も検討し今後も継続していきたい。③各学校にリーバー等の学校連絡アプリで配信に協力してもらったことが、多くの参加者獲得に繋がった。今後も学校連絡アプリを活用して効率的に事業の周知を図っていく。

事業名 テーマ	こうまつ寺子屋 ④フレイル予防教室 ⑤星空観察教室 ⑥シニア世代のスマホ・交通安全教室	対象	④成人一般 ⑤小学生と その保護者 ⑥幸松地区在住の65歳以上	定員	④20名 ⑤15組 (30名) ⑥30名
ねらい	市民生活に身近なテーマを取り上げ、地域住民の教養を高める。				
協力機関及び団体	④春日部市役所介護保険課 第2・第7地域包括支援センター ⑤草加天文愛好会 ⑥春日部市行政デジタル改革課 春日部市くらしの安全課 春日部警察署	特色位置づけ	④⑤⑥重点事業 ④⑤生涯学習市民推進員との共同事業	SDGsの目標No	3・4・11
会場	④幸松市民センター　講堂 ⑤幸松市民センター　講堂及び駐車場 ⑥幸松市民センター　研修室A・B	教材資料等	④レジュメ ⑤レジュメ ⑥レジュメ		
実施までの経過	4月～6月　④⑤企画・立案・講師決定 9月上旬　⑥企画・立案・講師決定 10月1日(水)　④⑤公民館だより掲載 10月中旬　⑤小学校あてに周知 12月1日(月)　⑥公民館だより掲載	PR方法	公民館だよりに掲載 安心安全情報メール配信 学校連絡アプリ		
		受付方法	④10月24日(金)9:00～窓口、電話で申込み ⑤10月25日(土)9:00～窓口、電話で申込み ⑥1月14日(水)9:00～窓口、電話で申込み		

月日(曜) 回数	時間 総時間数	内容	方法	参加者 男計	参加者 女計	参加者 合計	講師・助言者の職名 氏名
11月21日(金)	10:00～12:00	フレイル及びその予防策についての講義他	講義	1	19	20	春日部市役所介護保険課職員
11月29日(土)	18:00～20:00	星座・流星群の説明と観察会(屋外)	講義・観察	8	17	25	草加天文愛好会　三田明
2月13日(金)	13:30～15:00	スマートフォンとインターネットの基礎	講義	2	13	15	行政デジタル改革課職員
	15:30～17:00	シニア向け交通安全教室					春日部警察署交通課
4回	7時間			11	49	60	

企画運営上の工夫	④プログラムは、座学だけではなく実際に身体を動かす内容も取り入れることで、より深い学びにつなげられるようにした。⑤多くの方に参加してもらえるように地区内の小学校に事業の周知を依頼した。(リーバー等各小学校で使用している学校連絡アプリを活用)⑥高齢者支援の観点から、シニア向けの交通安全教室を同時開講とした。昨年のアンケートで多くの方が受講できるように開催回数を増やして欲しいとの要望があったことから、受講定員数を増やした。
成果 参加者の声など	④「資料がわかりやすかった。」、「聞くだけでなく実体験ができた点が良かった。」等の感想が寄せられ、一定の成果が得られた。⑤当日は、不安定な天候であったが、講師の臨機応変な対応により、月や土星をはっきりと観ることができた。⑥スマートフォン講座においては、「より詳しい内容を学びたい」「スマートフォンとパソコンの双方を扱うシニア向け講座を開催してほしい」等の声が寄せられ、DX関連事業への関心の高さがうかがえた。交通安全教室では、「事故防止のポイントが分かりやすかった」「ヘルメット着用の重要性を再認識できた」等の感想があり、参加者が熱心に受講する様子が見られた。
課題と展望	④今後は「フレイル予防」を運動面だけではなく、栄養面、社会参加の面からも事業の展開を考えていきたい。⑤以前に比べ参加者が減少傾向にある。周知方法や事業内容に工夫を凝らすなどして、多くの方に参加していただけるよう、努めていきたい。⑥講師体制については庁内担当課に加え、外部団体や教育機関等との連携を図ることで、講座内容に新たな視点や専門性を取り入れ、より充実した事業へと発展させていきたい。

幸松地区　5

事業名 テーマ	公民館利用団体共催　オープン講座 ①やさしいチェアヨガ教室 ②やさしいフローシキよが教室 ③折紙で作る干支飾り 「馬(うま)」	対象	①成人一般 ②女性一般 ③一般	定員	①30名 ②20名 ③15名
ねらい	利用団体と共催で事業(講座や展示会)を実施し、利用団体の会員増加につなげるとともに、各団体の活動を広め、地域の活性化に寄与する。				
協力機関及び団体	①やさしいチェアヨガ教室 ②coco..luana ③おりがみ	特色位置づけ		SDGsの目標No	4
会場	①幸松第二公民館 ②幸松第二公民館　大会議室 ③幸松第二公民館　大会議室	教材資料等	③折紙・ボンド・はさみ・筆記用具		
実施までの経過	4月～6月　①企画・立案・講師決定 6月～8月　②企画・立案・講師決定 7月～9月　③企画・立案・講師決定 8月1日(金)　①公民館だより掲載 10月1日(水)　②③公民館だより掲載	PR方法	公民館だより掲載 ポスター掲示		
		受付方法	①8月1日(金)9:00～幸松第二公民館窓口、電話で申込み ②10月8日(水)9:00～幸松第二公民館窓口、電話で申込み ③10月1日(水)9:00～幸松第二公民館窓口、電話で申込み。材料費500円は当日徴収		

月日(曜) 回数	時間 総時間数	内容	方法	参加者 男 計	参加者 女 計	参加者 合計	講師・助言者の職名 氏名
8月30日(土)	10:30～11:30	椅子に座って行うヨガ	実技	2	29	31	講師:土橋洋子 (チェアヨガインストラクター)
11月1日(土)	10:00～11:30	ふろしきを使ったヨガ	実技	0	16	16	講師:鈴木さくら FLOWSHIKI(フローシキ)RYT200取得
11月26日(水)	10:00～12:30	季節の作品 折紙で干支飾り「馬(うま)」を作成		1	17	18	講師:中山ナホ子 (第二公民館サークル)
3回	5時間			3	62	65	

企画運営上の工夫	①ポーズの難易度を低くし、ヨガ初心者の方やシニアの方など、だれでも簡単に参加できるようにした。②ふろしきを使ったヨガで、身体が硬い、運動が苦手な方、そして高齢者でも楽しめる内容にした。 ③学習がしやすいように、作品の各パーツの準備を整えた。また、事前にサンプルとなる作品を展示し、関心を持ってもらう機会を設けた。
成果 参加者の声など	①「参加してよかった」「良い企画だった」「いかに運動不足かがわかりました」等の感想をいただいた。②「風呂敷を使うことにより動きやすくなった」、「ゆったりとした内容で癒された」、「リラックスできた」等の感想をいただいた。③「かなり難しい工程だった」等の感想があり、今回の作品テーマは難易度が高かったように見受けられた。
課題と展望	①②第二公民館で利用割合の多い高齢者も参加できる企画を今後も継続したい。③終了予定時間が30分オーバーとなった。作品難易度によっては個別の対応も必要とするため、円滑に進行するため1～2名の講師助手の配置を検討する。

事業名 テーマ	「社会を明るくする運動」研修会	対象	一般	定員	60名
ねらい	地域住民とともに、安全な生活環境を構築し、犯罪・非行のない明るい社会を目指す。				
協力機関及び団体	幸松地区更生保護女性会(主催)	特色位置づけ		SDGsの目標No	4・11
会場	幸松市民センター　講堂	教材資料等			
実施までの経過	2月15日(土)　企画打合せ 5月上旬　講師及び講演内容決定 5月下旬　各種団体へ開催案内配布 6月1日(日)　公民館だより掲載 6月11日(水)　一般申込み開始 6月27日(金)　申込み締切(自治会・学校) 打合せ(3回目) 7月10日(木)　実施	PR方法	公民館だより6月号掲載 地区内各種団体(自治会・PTA等)へ開催案内配布		
		受付方法	6月11日(水)9:00～幸松市民センター窓口、電話で申込み		

月日(曜)	時間	内容	方法	参加者 男	参加者 女	参加者 合計	講師・助言者の職名 氏名
回数	総時間数			計	計		
7月10日(木)	10:00～11:30	講演 春日部警察署の職員による講演 「春日部市の犯罪発生状況について」 「子どもを取り巻く犯罪の発生状況とその防止策について」	講話	7	17	24	春日部警察署生活安全課 生活安全総務係　警部補 河村　信明
1回	1時間30分			7	17	24	

企画運営上の工夫	幸松地区更生保護女性会との共催事業として、企画に取り組むことにより、地域の犯罪・非行の防止活動を推進し、明るい社会を作るため講演会を実施する。 講演を受けてのグループディスカッションを設けて、参加者が意見を交換し、交流を深めることができるようにする。
成果 参加者の声など	PTA参加者から「児童虐待について児童相談所等への通報を通じて、地域住民がどのように関わればよいかを学習できてよかった」との声があった。また、自治会の代表者からは「参加できなかった地域住民に内容を伝えるため、講演で使用した資料を提供してほしい」との声があった。
課題と展望	講演を通じたグループディスカッションでは非常に活発な意見交換がなされたため、次回も導入したい。また、講師と事前に調整し、講演内容が反映された資料を配布できるようにすることで、講演内容が多くの地域住民にフィードバックされるようにしたい。

幸松地区　7

事業名 テーマ	幸松地区体育振興会 ①第3回ボッチャ大会 ②第17回グラウンドゴルフ大会	対象	①地区在住者(小学生以上) ②地区内在住の成人	定員	①10チーム(1チーム3名) ②16チーム(1チーム3名)
ねらい	スポーツを通じて、地域住民の健康の増進と親睦を図る。				
協力機関及び団体	幸松地区体育振興会	特色位置づけ		SDGsの目標No	3・4
会場	①幸松地区公民館　講堂 ②牛島小学校　校庭	教材資料等			
実施までの経過	4月19日(土)　体育振興会理事会 5月17日(土)　体育振興会総会 5月24日(土)　第2回体育振興会理事会開催 8月2日(土)　第3回ボッチャ大会開催 11月30日(日)　第17回グラウンドゴルフ大会開催	PR方法	公民館だより6・10月号掲載		
		受付方法	①6月14日(土)9:00～ 幸松市民センター窓口へ直接申込み ②10月18日(土)～11月7日(金)に 幸松市民センター窓口へ直接申込み		

月日(曜)	時間	内容	方法	参加者 男	参加者 女	参加者 合計	講師・助言者の職名氏名
回数	総時間数			計	計		
8月2日(土)	9:00～12:00	ボッチャ大会	競技	5	19	24	幸松地区体育振興会
11月30日(日)	9:00～12:00	グラウンドゴルフ大会	競技	12	21	33	
2回	6時間00分			17	40	57	

企画運営上の工夫	・幸松地区体育振興会が企画するスポーツ大会とすることで、地域の取り組みに対する理解を深めてもらい、地域の活性化につながるよう配慮した。 ・表彰は、成績上位者だけでなく飛賞などを設けて参加者が少しでも楽しめるようにした。
成果 参加者の声など	・ボッチャ大会は中学生をリーダーとした子どもチームの参加があり、幅広い年代層の参加者が皆夢中になって競技を楽しんでいる姿が多く見られ、世代間交流も図ることができた。 ・成績により賞品がもらえてうれしかったとの声や参加者同士での交流も図れ、楽しい時間が過ごせてよかったとの声が多く聞かれ大変好評であった。
課題と展望	・参加者は固定化・減少傾向にあるため、事業のPR方法など工夫して、幅広い年齢層の新規参加者層の獲得方法を今後検討していきたい。 ・外部のグラウンド等を借用して行う事業は、天候、周辺環境、物品移動など外的環境要素に左右されるため、種目の決定やその運用方法について今後検討していきたい。

事業名 テーマ	こうまつ音楽祭 ①幸松市民センター・こうまつ音楽祭 ②幸松第二公民館・新春コンサート	対象	一般	定員	①100名 ②80名
ねらい	音楽を通じて住民の交流の場とする。また、子どもから大人まで音楽に気軽に触れられる機会を提供する。				
協力機関及び団体	①プラグド(音響補助) ②マハロ・ウクレレ	特色位置づけ	重点事業	SDGsの目標No	4
会場	①幸松市民センター　講堂 ②幸松第二公民館　大会議室	教材資料等	パンフレット		
実施までの経過	4月中旬　①企画・立案・出演折衝 5月14日(水)　①演奏者打合せ 8月1日(金)　①公民館だより掲載 8月30日(土)　①チケット配布開始 9月28日(日)　①AMリハーサル 13:00～演奏開始 8月上旬　②企画・立案・出演折衝 11月29日(土)　②演奏者打合せ 12月1日(月)　②公民館だより掲載 1月11日(日)　②リハーサル 1月17日(土)　②10:30～演奏開始	PR方法	①公民館だより8月号掲載 ②公民館だより12月号掲載 ①②館内ポスター掲示		
		受付方法	①8月30日(土)9:00～幸松市民センター窓口にてチケット配布(先着順) ②12月2日(火)9:00～幸松第二公民館窓口、電話で申込み(先着順)		

月日(曜) 回数	時間 総時間数	内容	方法	参加者 男計	参加者 女計	参加者 合計	講師・助言者の職名氏名
9月28日(日)	13:00～14:30	ギター演奏	演奏	44	67	111	①椎谷　幸彦 土井　七恵 プラグド(音響補助)
1月17日(土)	10:30～12:00	ウクレレ演奏と フラダンス鑑賞	演奏	12	61	73	②マハロ・ウクレレ
2回	3時間00分			56	128	184	

企画運営上の工夫	①・参加者にとって身近な音楽祭となるように、親しみのある楽曲を取り入れていただくように依頼した。 ②昭和歌謡を参加者で歌い、途中フラダンスも鑑賞できるようにし、参加者同士の連帯感を高めるような環境を提供した。
成果 参加者の声など	①「ギターの音色が素晴らしかった。お二人の息の合った演奏に心が癒された」等の声が多数寄せられ、参加者にとって満足度の高い事業であった。 ②「昭和歌謡を一緒に歌えてよかった」との声をいただき、参加者の連帯感を高める音楽祭にすることができた。
課題と展望	①音響機器の調整をPAサークルプラグドさんに依頼し音楽祭当日は滞りなく開催できた。今後も事前の音響調整は必要であると思われる。 ②音楽祭を「知人から知った」と回答した者が40%を占めていたことから、口コミによる周知効果の高さがうかがえた。地域コミュニティの形成を助長する事業として、来年度も継続して実施したい。

幸松地区　9

事業名 テーマ	第71回幸松地区体育祭	対象	幸松地区内住民	定員	定めず
ねらい	地域住民の体育・レクリエーションの祭典。健康の増進と体力の向上を図るとともに地域の連帯感の高揚を図る。				
協力機関及び団体	幸松地区自治会連合会・幸松地区体育振興会	特色 位置づけ	重点事業	SDGsの目標No	3・11・17
会場	東中学校　校庭	教材 資料等	競技用具一式		
実施までの経過	5月21日(水)　春日部市民体育祭実行委員会 6月14日(土)　体育祭第1回実行委員会 7月19日(土)　体育祭実行委員会役員会 9月20日(土)　体育祭第2回実行委員会 10月12日(日)　第71回幸松地区体育祭 10月18日(土)　体育祭第3回実行委員会	PR方法	地区内幼稚園、小・中学校、高校、特別支援学校へのポスター掲示依頼 各自治会にポスター掲示依頼 体育祭プログラムの各戸配布		
		受付方法	自由参加種目：申込不要 地区対抗種目：8月31日(日)までに地区内で選出 当日受付種目：当日受付		

月日(曜) 回数	時間 総時間数	内容	方法	参加者 男計	参加者 女計	参加者 合計	講師・助言者の職名 氏名
10月12日(日)	9:00～15:30	・地区対抗種目　5競技 ・自由参加種目　11競技 ・団体種目　1競技	競技	1,200	800	2,000	
1回	6時間30分			1,200	800	2,000	

企画運営上の工夫	・実行委員会を組織して大会運営に当たる。 ・プログラムの見直しにあたっては、誰もが安全に楽しめる競技を採用する。 ・多世代交流や大会参加者増を目的とした「健康ふれあい奨励費」を活用し財源確保に努める。 ・体育祭会場である東中学校の吹奏楽部員や生徒のボランティアに協力してもらい、学校と地域の連携を図る。
成果 参加者の声など	・当日は天候にも恵まれ、トラブルや大きな事故等もなく大盛況のもと開催できた。また、概ねタイムスケジュールのとおり運営することができた。 ・官・民・学が連携して地域コミュニティの醸成が図れた。
課題と展望	・小学校運動会の予備日と重なってしまい、地区対抗選手や競技役員に変更を余儀なくされた。様々なイベント等と重ならないよう調整の必要がある。 ・体育祭がマンネリ化しないように新しい競技を考えるなど様々な工夫を検討していく。また、体育祭の各係ごとの反省点を活かし、来年度以降も地域の一大イベントとして開催をしていきたい。

事業名 テーマ	小・中学生期家庭教育学級	対象	小・中学生の保護者及び家庭教育に関心のある人	定員	50名
ねらい	小・中学生期における家庭教育のあり方について学ぶ。				
協力機関及び団体	共催：東中学校・同PTA、幸松小学校・同PTA、牛島小学校・同PTA、小渕小学校・同PTA更生保護女性会(託児)	特色位置づけ	重点事業	SDGsの目標No	4
会場	幸松市民センター　講堂	教材資料等	レジュメ		
実施までの経過	7月11日(金)　第1回目打ち合わせ 8月7日(木)　講師折衝 8月25日(月)　講師決定 9月4日(木)　第2回目打ち合わせ 10月1日(水)　公民館だより掲載 10月24日(金)　学校連絡アプリの配信依頼 11月13日(木)　講師打合せ 12月4日(木)　開催	PR方法	公民館だより10月号掲載 リーバー等の学校連絡アプリ		
		受付方法	幸松市民センター窓口、電話または配信データリンクからメールで申込		

月日(曜) 回数	時間 総時間数	内容	方法	参加者 男計	参加者 女計	参加者 合計	講師・助言者の職名 氏名
12月4日(木)	10:00～11:45	デジタル社会における子どもとの付き合い方		5	22	27	埼玉県ネットアドバイザー 吉田　理子 埼玉県・埼玉県教育委員会主催「こども安全見守り講座」により派遣
1回	1時間45分			5	22	27	

企画運営上の工夫	・地区内の小・中学校との共催事業とし、校長及びPTA役員、公民館で小・中学生期における家庭教育に共通した課題を検討し、小学生児童を持つ保護者、中学生児童を持つ保護者両者が満足するような講演となるようにテーマを決定する。 ・小さなお子さんを持つ保護者にも参加しやすいように、託児サービスも設けるようにする。
成果 参加者の声など	「スマホが欠かせない時代になっているなかで『保護者の責任』という言葉がささりました。ただダメというのでなく良く話し合いたいと思いました」、「ネットの特性がわかりやすく、理解することができた。その上で対応策など具体的にお話しいただきあっという間に時間が過ぎました。特に、トラブルの話しで学校で対応できること、スマホを持たせた親の責任を明確に伝えていただいたことは、大変ありがたいです。」など、大変満足度の高い講演であったとの感想が寄せられ、事業終了後のアンケートの結果でもほぼ全員が「満足した」との回答だった。
課題と展望	・参加者はほとんどがPTA役員で、年々減少傾向にある。一方でいざ参加をしてみれば、内容的には高評価の講座となっているが、事業の主催者でもあるPTAから、参加も含め地区全体で行うことへの問題提起がなされているため、今後の開催方法等について検討する必要がある。 ・今回に関しては、埼玉県こども安全見守り講座を利用したことで報償費を支出することなく講師を派遣してもらえたが、講師の名前しかわからず相手からの連絡待ちとなるため、打合せが間際になってしまった。

幸松地区　11

事業名 テーマ	春日部市市制施行20周年記念 第37回幸松ふれあい文化祭	対象	公民館利用者及び幸松地区に在住・在勤・在学する方及び一般	定員	定めず
ねらい	地域の住民の文化・スポーツ活動の学習成果の発表の場及び地域住民のふれあいの場とする。				
協力機関及び団体	第37回幸松ふれあい文化祭実行委員会 協賛：幸松地区自治会連合会、支部社協	特色位置づけ	重点事業	SDGsの目標No	4・11・12・17
会場	幸松市民センター　全館	教材資料等	プログラム		
実施までの経過	6月1日(日)　公民館だより掲載 6月中旬　参加団体申込み開始 7月12日(土)　かすかべフードセレクション店舗募集依頼 7月30日(水)　参加団体申込み〆切 8月上旬～　かすかべフードセレクション店舗募集 9月5日(金)　第1回実行委員会 9月6日(土)　かすかべフードセレクション店舗打合せ 9月下旬　公民館だより掲載 10月1日(水)　第2回実行委員会 10月25日(土)　準備(リハーサル・搬入等) 11月1～7日　実施 11月8～9日	PR方法	プログラム 公民館だより6・10月号に掲載		
		受付方法	参加団体：6月中旬～7月30日(水)に幸松市民センター・幸松第二公民館の窓口で配布する申込用紙を提出。 来場者：自由観覧		

月日(曜) 回数	時間 総時間数	内容	方法	参加者 男計	参加者 女計	参加者 合計	講師・助言者の職名氏名
11月8日(土) 11月9日(日)	10:00～15:00 10:00～15:00	展示・体験、ステージ発表 物販(かすかべフードセレクション出張販売)		396	925	1321	参加団体 展示(体験部門)12団体 ステージ発表部門16団体 小中学校作品展示5校 かすかべフードセレクション登録店舗(2店)
1回	10時間			396	925	1321	

企画運営上の工夫	・観光振興課と連携し、かすかべフードセレクション出張販売を展開する。来場者には春日部市の「こだわりの一品」を楽しみながら、文化祭を観覧してもらう。 ・小学校、中学校の児童・生徒の作品展示を設けるとともに、ステージ発表に子どもたち中心の団体に参加してもらう等、異なる世代間の交流が図られる空間作りを目指す。 ・一般来場者確保のため「公民館まつり」と同時開催とする。
成果参加者の声など	・今回初めての試みとなった「かすかべフードセレクション」出張販売(9日のみ)では、出店した2店とも「予想以上の売り上げ」を達成した。来館者から「土日の2日間出店させてほしい」との要望もあり、館内に設けた飲食スペースでは、食事を楽しみながら参加団体、地域住民の交流に花が咲いていた。 ・毎年恒例の東中学校吹奏楽部のオープニング演奏では、今回初めて野球部員とのコラボで行われ、会場を埋め尽くした観客からは、「コラボレーションがとても面白かった」との感想が聞かれた。
課題と展望	・フードセレクション登録店舗の出店は高い集客効果を示したことから、次回は「出店期間の延長」や「店舗数の拡大」等を検討し、さらなる集客につなげたい。また、展示コーナーの一部に来場者が集中しにくい箇所が確認されたため、店舗配置を工夫し、会場全体に人の流れが生まれるレイアウトとする必要がある。 ・ステージ発表では、1日目の開会演奏と最終演目(キッズダンス)に観客が集中する傾向がある。集客効果の高い音楽祭のように演奏家を招へいするなど、参加団体の発表だけにとどまらない企画を取り入れることで、ステージ発表全体の活性化を図りたい。

事業名 テーマ	公民館まつり	対象	地域住民	定員	無し
ねらい	レクリエーション等をとおして、地域住民の交流を深めるとともに、世代間の交流を図る。				
協力機関及び団体	東中学校、 エンゼル・ドーム(コマーム)、 春日部農産物直売所はくれん	特色 位置づけ	重点事業	SDGsの目標No	4・11・17
会場	幸松市民センター　体育室	教材 資料等			
実施までの経過	6月上旬　企画、立案 7月上旬～　協力者依頼、備品等借用依頼 9月上旬～　協力団体等との打ち合わせ 10月上旬～　地区内幼稚園、保育園、小学校等にチラシ配布 11月上旬～　会場事前準備等 11月9日　開催	PR方法	公民館だより10月号掲載 地区内小学校の学校連絡アプリで周知 地区内幼稚園、保育園にチラシ配布		
		受付方法	事前申込不要 当日、直接会場へ		

月日(曜) 回数	時間 総時間数	内容	方法	参加者 男計	参加者 女計	参加者 合計	講師・助言者の職名氏名
11月9日(日)	10:00～15:00	エンゼル・ドーム企画 わくわくチャレンジゲーム 缶バッジづくり 新鮮野菜直売所　等	体験	250	250		協力団体等の方々が各コーナーを担当
1回	5時間00分			250	250	500	

企画運営上の工夫	・ できるだけ多くの方が無理なく安全に参加できるよう、各コーナーへの動線を工夫する。 ・ これまでのメニューを見直すとともに、中学生ボランティアや協力団体等と連携を図りながら、手作り感のあるアットホームな公民館まつりを目指す。
成果 参加者の声など	・ 17名の中学生ボランティアや地域内にある児童センター職員(3名)等のご協力により、地域内の世代間交流が図れた。 ・ 内容を一部見直したことで、参加者からは興味をもって参加できたとの声が寄せられた。 ・ 参加者からは、楽しかったとの声が多く寄せられた。
課題と展望	・ 前日の夜から雨が降り続いたこともあり、車での来館者が多く、あらかじめ牛島公園の駐車場を借用してはいたものの、駐車場が大変混雑した。事前に駐車場が少ないことを事前周知するなど、今後に向けて対策を講じたい。 ・ 同時開催されている文化祭との連携を密にし、相乗効果によりイベントを盛り上げられるよう、事業の内容等を工夫していきたい。

幸松地区　13

事業名 テーマ	利用者のつどい	対象	公民館利用者	定員	各団体 2名まで
ねらい	公民館利用者と公民館の連絡及び利用者相互の交流の場とする。				
協力機関 及び団体		特色 位置づけ		SDGsの目標No	4
会場	幸松市民センター	教材 資料等	・レジュメ ・公共予約システムの使い方について		
実施までの経過	12月1日(月)　公民館だより掲載 12月2日(火)　申込み開始 1月15日(木)　実施	PR方法	公民館だより12月号掲載 窓口にて公民館利用団体に申込書を配布		
		受付方法	1月8日(木)までに、幸松市民センターまたは幸松第二公民館窓口で参加申込書を提出 (各団体2名まで)		

月日(曜)	時間	内容	方法	参加者 男	参加者 女	参加者 合計	講師・助言者の職名 氏名
回数	総時間数			計	計		
1月15日(木)	10:00～10:30 11:20～11:50	防災・防犯について 公共予約システムの使い方について ※10:40～11:05　人権教育研修会を実施	説明 実技 説明	5	27	32	市民センター職員
1回	1時間			5	27	32	

企画運営上の工夫	・公民館利用団体の代表者に出席してもらい、サークル活動内容などを把握するとともに、公民館利用ルールの再確認及び公民館運営に関する情報伝達の場とし、地区公民館と第二公民館合同開催とする。 ・防災訓練で避難経路を確認することで災害が起きても慌てずに避難できるきっかけとなる。 ・公共予約システムの使い方を教えることで利用者の利便性向上につながる。また、今回は申込みの時点で参加の有無を聞き取るようにし、参加希望者のみ参加してもらうよう工夫した。
成果 参加者の声など	・公民館利用に関する内容の再認識の場となった。 ・防災についてはシェイクアウト訓練を参加者と実施し、自分の命を守る第一手段を確認した。 ・防犯について、詐欺の被害にあわないよう、仮想体験ツールを紹介した。 ・「公共予約システムの使い方講座」の実施した結果、新規利用者の利便性向上だけではなく、既に使用している人からも予約方法の効率性向上につながったとのご意見があった。
課題と展望	・アンケート集計の結果、参加者の9割以上が主婦(主夫)、パート、無職の方であった。さらに多くの方に参加してもらうには、次回以降、土曜日開催も視野にいれる必要があると考える。 ・日頃の公民館活動における疑問点や意見などを伺うことができる良い機会であるため、今後も公民館利用者にとって有意義な集いになるよう心掛けていきたい。

事業名 テーマ	人権教育研修会	対象	公民館利用団体	定員	各団体 2名まで
ねらい	人権問題について正しい理解と知識を深める。				
協力機関 及び団体		特色 位置づけ		SDGsの目標No	4・5・10
会場	幸松市民センター	教材 資料等	人権啓発DVD		
実施までの経過	12月1日(月)　公民館だより12月号掲載 12月2日(火)　申込み開始 1月15日(木)　実施	PR方法	公民館だより12月号掲載 窓口にて公民館利用団体に申込書を配布		
		受付方法	1月8日(木)までに、幸松市民センターまたは幸松第二公民館窓口で参加申込書を提出 (各団体2名まで)		

月日(曜) 回数	時間 総時間数	内容	方法	参加者 男計	参加者 女計	参加者 合計	講師・助言者の職名 氏名
1月15日(木)	10:40～11:05	人権啓発DVD上映 「家庭の中の人権 生まれ来る子へ」	鑑賞	5	27	32	市民センター職員
1回	0時間25分			5	27	32	

企画運営上の工夫	・公民館利用者のつどいと同時開催をすることで、多くの利用者に対して人権啓発のためDVD鑑賞などを通して、人権にかかる知識の習得や人権問題に関する意識付けを目的に開催した。
成果 参加者の声など	「内容が時期に合っていて感心した」「昭和の常識は令和の非常識に感じた」「とても心に響く内容だった」「DVDをとおして自分のおこないを反省しようと思った」との意見があったことから、家庭内の人権問題に対して関心を持つ良いきっかけとなった。
課題と展望	・毎年さまざまな人権テーマをDVDをとおして勉強ができる数少ない機会のため、今後も継続して実施していきたい。 ・アンケート結果からも、時期にあった人権問題を紹介することの重要性を感じた。 今後はDVDだけに限らず、さまざまな方法で人権の啓発に努めていく必要がある。

幸松地区　15

事業名 テーマ	幼児家庭教育学級 親子で一緒に楽しく遊ぼう！	対象	未就学児 と保護者	定員	15組 (30名)
ねらい	幼児期の発育を正しく理解し、家庭における教育の在り方について学ぶ。				
協力機関 及び団体	特になし	特色 位置づけ	子育て支援事業	SDGsの目標No	4
会場	幸松市民センター　講堂	教材 資料等	レジュメ		
実施までの経過	12月中旬　講師依頼 1月中旬　講師打ち合わせ 1月下旬　幼稚園等に案内チラシ配布 2月1日(日)　公民館だより掲載 2月5日(木)　子育て情報メール配信 2月7日(土)　募集開始 2月18日(水)　子育て情報メール再配信 2月28日(土)　実施	PR方法	公民館だより2月号掲載 子育て情報メール配信 地区内の幼稚園・保育園にチラシの配布 エンゼル・ドームにてチラシ配布		
		受付方法	2月7日(土) 8:30～幸松市民センター窓口、電話で申込み(先着順)		

月日(曜) 回数	時間 総時間数	内容	方法	参加者 男計	参加者 女計	参加者 合計	講師・助言者の職名 氏名
2月28日(土)	10:00～12:00	1　親子レクリエーション 2　子育て講座 3　グループディスカッション	実習 講義 話し合い	15	19	34	(株)コマーム 子育て研究室 與語　正子 和泉　早苗
1回	2時間00分			15	19	34	

企画運営上の工夫	・事前アンケートを実施し、参加者のニーズを反映させながら講座を展開していく。 ・親子で遊びながら子育てのヒントが得られるような内容となるよう、講師と綿密に打合せを行う。併せて講座内容の振り返りができるよう、わかりやすい資料づくりに努める。
成果 参加者の声など	「同じ年齢の子どもを持つ方々と意見交換・情報交換ができてよかった。」、「楽しくふれあったり貴重な話を聞いたり、良い時間を過ごすことができた。」等の感想が寄せられ、事業のねらいに対し一定の成果は得られたと考える。
課題と展望	様々なツールを用いて参加者の募集を行ったが、思いのほか反応が鈍かった。今後は更なる情報収集を行い、対象者のニーズの把握に努め、より魅力的な事業になるよう、内容の精査を行っていきたい。

事業名 テーマ	サークル体験会	対象	一般	定員	―
ねらい	公民館利用サークルを紹介し、サークル活動の促進と利用の活発化を図る。				
協力機関及び団体	幸松地区公民館、幸松第二公民館の利用団体	特色位置づけ		SDGsの目標No	4
会場	幸松市民センター・幸松第二公民館	教材資料等			
実施までの経過	10月1日(火) 公民館だより掲載 参加団体募集開始 10月31(木) 参加団体募集〆切 2月1日(日) 公民館だより掲載 3月1日(日) 参加者募集開始 ～ サークルの見学・体験 3月31(火) 期間	PR方法	公民館だより2月号掲載 ポスター		
		受付方法	2月1日(日)より、幸松市民センター・幸松第二公民館窓口、電話で申込み。		

月日(曜) 回数	時間 総時間数	内容	方法	参加者 男計	参加者 女計	参加者 合計	講師・助言者の職名 氏名
3月1日(日) ～ 3月31日(火)		サークル活動の見学・体験		3	11	14	参加団体25団体 体験者14人
				3	11	14	

企画運営上の工夫	サークル体験会の分かりやすい要項を利用団体にお渡しし、申込受付の際に綿密な打合せを行う。体験会の詳細を公民館だよりに掲載する。 当日は会場入口と各部屋の前に「サークル体験会実施中」の表示をする。
成果 参加者の声など	参加団体25団体に対して14人の体験者がいた。そのうち8人が入会という結果となった。体験参加者からは「楽しく参加できた」と感想がよせられた。また体験会参加団体から「入会者がいて体験会をやって良かった」や「参加者がいないのは広報が問題だ」と声があった。
課題と展望	多くの方にサークル体験会に参加してもらえるように公民館だよりに二次元コードを掲載し一覧表を閲覧できるようにしたが参加者が振るわなかった。今後はサークル団体と公民館の共同開催で事業を展開し、公民館活動の活性化を図っていきたい。

幸松地区 17

事業名 テーマ	幸松第二公民館利用者作品展示	対象	幸松第二公民館 利用サークル 来館者	定員	ー
ねらい	公民館利用団体の作品発表の場として開放し、地域住民に鑑賞の機会を提供する。				
協力機関及び団体	参加希望サークル	特色位置づけ		SDGsの目標No	4
会場	幸松第二公民館ロビー	教材資料等			
実施までの経過	4月～3月　随時展示作品申込 季節の作品を展示 (新しい作品ができ次第随時展示)	PR方法	公民館だより、公民館ブログに掲載		
		受付方法	参加団体:窓口にてロビー展示申込み(随時) 来場者:自由観覧		

月日(曜) 回数	時間 総時間数	内容	方法	参加者 男 計	参加者 女 計	参加者 合計	講師・助言者の職名 氏名
4月～3月		季節に因んだ作品及びサークル活動作品の展示	展示 観覧				おりがみ 金曜会 松寿会
12回							

企画運営上の工夫	ロビーに展示スペースを設け、より多くの作品を飾り、来館者の目に触れてもらうようにした。 レイアウトも作品が引き立つように工夫して展示していく。 公民館利用団体などに声掛けし、日頃の成果を発表する機会の提供をする。 幸松第二公民館ブログに掲載することにより、広く作品を紹介することができる。
成果 参加者の声など	季節を感じる作品を展示することにより、来館者に興味をもって見ていただき、コミュニケーションがとれる場ともなった。 作品を披露できたことで出展者からとても喜ばれ、次回作の意欲につながった。
課題と展望	展示スペースが限られているため、作品数との兼ね合いが難しい時もあるので、より良い展示方法を考えていきたい。 展示内容の変化などにより、新たな視点で広く興味をもってもらえる作品展示に務めていきたい。

事業名 テーマ	公民館だより「ふじの里」発行	対　象	幸松地区全戸	定員	―
ね　ら　い	公民館事業及び地域行事の情報提供を行う。				
協力機関 及び団体		特　色 位置づけ		SDGsの目標No	4・11
会　場		教　材 資 料 等			
実施までの 経 過	発行前月初め　編集会議 発行前月上旬　作成 ～中旬 発行前月下旬　印刷・梱包 偶数月1日　　発行	PR方法			
		受付方法	掲載依頼記事は、前月の10日まで		

月日(曜)	時　間	内　　容	方法	参加者 男	参加者 女	参加者 合計	講師・助言者の職名 氏　名
回　数	総時間数			計	計		
年6回偶数月発行		公民館主催事業等の情報などを提供 約8,500部/回を配布					
6回							

企画運営上の　工　夫	公民館事業については見やすく、興味をもたれるような紙面づくりを心掛けた。 利用サークルの会員募集や、他の公民館・他課の情報も出来る限り掲載するようにした。 掲載内容が多い月はA3の用紙サイズとすることで、見やすく情報提供することを心掛けた。
成　　果 参加者の声　など	主催事業の参加者にアンケートをとると、事業を知ったきっかけは公民館だよりという回答が大半を占める。公民館だよりの発行は、地域住民にとって、公民館事業を知る主な手段となっている。
課題と展望	事業実施報告や参加者の声なども掲載する紙面や見やすい紙面作りとする。同時に、「紙面に配置したQRコードを読み取って事業に申し込むことができる」等、DXを意識した構成としていきたい。

幸松地区　19【防災・防犯の拠点に関する事業(地区センター事業)】

事業名 テーマ	幸松地区防災のつどい	対象	幸松地区在住者	定員	20名
ねらい	自然災害や犯罪から自分や家族・地域を守ることができるよう、日頃から防災・防犯に関連する講習、訓練等を通じて必要な知識を身につける。				
協力機関及び団体	春日部市危機管理防災課 牛島三番地区自主防災会	特色位置づけ	重点事業	SDGsの目標No	11
会場	幸松市民センター	教材資料等			
実施までの経過	9月4日(木)　危機管理防災課打合せ 10月1日(水)　公民館だより掲載 10月2日(木)　自治会長打合せ 10月16日(木)　自治会長打合せ 11月11日(火)　受付開始 12月6日(土)　実施	PR方法	公民館だより10月号掲載		
		受付方法	11月11日(火)9:00～幸松市民センター窓口、電話で申込み		

月日(曜) 回数	時間 総時間数	内容	方法	参加者 男計	参加者 女計	参加者 合計	講師・助言者の職名氏名
12月6日(土)	10:05～10:20 10:30～12:00	備蓄品について考えよう 避難所開設訓練	講義 実技	41	21	62	危機管理防災課職員 市民センター職員
1回	2時間			41	21	62	

企画運営上の工夫	・幸松地区内住民を対象にして実施することで、防災に関する知識等を学ぶ機会を提供する。 ・毎年、参加者のほとんどが牛島地区の住民であるため、チラシを作成し他地区の住民に事業の周知をした。 ・幸松市民センターが災害時等で避難所になることから、有事の際の避難所の受付運営や避難誘導訓練を実際に体験してもらい、有事の際に速やかな対応が取れるようにした。 ・毎年、年末の慌ただしい時期の開催で参加者から「時期をずらしてほしい」との意見が多かったため、今年は12月上旬の開催とした。
成果 参加者の声など	・「ただ聞くだけと実行するとではだいぶ違うことを感じた。疑似体験することの大切さを学んだ」「新しい発見があった」「来年も引き続き参加したい」「市長の話が特によかった」と、ほぼ満足の声をいただいた。
課題と展望	・参加対象が「幸松在住者」だが、牛島地区の防災訓練と思われてしまい、他地区の参加者がかなり少なかった。今後は幸松地区の防災士の有資格者との連携を検討し、参加者の拡大を図る必要がある。

事業名 テーマ	こどもの居場所づくり特別企画 放課後手品教室	対象	4年生以上の 小学生	定員	10名程度
ねらい	こどもの居場所づくりの充実を図る。				
協力機関及び団体	春日部マジッククラブ	特色位置づけ		SDGsの目標No	4
会場	幸松市民センター 研修室B	教材資料等			
実施までの経過	7月中旬 企画 8月中旬 講師決定 9月13日(土) 打合せ 12月1日(月) 公民館だより掲載 12月5日(金) リーバーに掲載 12月9日(火) 申込み開始 12月24日(水) 実施	PR方法	公民館だより12月号掲載 リーバー等の学校連絡アプリ		
		受付方法	12月9日(火)9:00～幸松市民センター窓口または電話で申込み		

月日(曜)	時間	内容	方法	参加者 男	参加者 女	参加者 合計	講師・助言者の職名 氏名
回数	総時間数			計	計		
12月24日(水)	14:00～15:00	小学生の遊びスペースに来た子どもを対象に手品教室を開催する。	実習	4	5	9	プロマジシャン ダーク浜
1回	1時間			4	5	9	

企画運営上の工夫	①室内でも、比較的簡単に取り組めること②子どもが興味を持ちそうなこと、2点を考慮して「マジック」をテーマとした。また、当館主催の事業(ふれあい文化祭のステージ発表)や、ボランティア活動(福祉施設訪問での実演)で、実績のある春日部マジッククラブに講師依頼した。
成果 参加者の声など	児童が講師のマジックパフォーマンスに引き込まれ、目を輝かせながら参加している姿が印象的であった。アンケートでは「とても楽しかった」「思い出に残る体験ができた」といった感想が寄せられ、本講座は「こどもの居場所づくりの充実」を図る上で、有意義な事業となった。
課題と展望	実施したアンケートでは、小学生の遊び場において「お絵かき教室」や「料理教室」を開催してほしいとの意見が寄せられた。今後は、遊び場を利用する小学生のニーズを踏まえた企画を継続的に実施し「こどもの居場所」のさらなる充実を図っていく。